

研究－参考書式 1

2016年4月から2018年12月までに

## 物忘れ外来にされた方へ

当センターでは下記の臨床研究を実施しています。この研究の詳細についてお知りになりたい方は、問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の情報等をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

### ●研究の名称

アルツハイマー型認知症およびレビー小体型認知症の抑うつについての検討－高齢者用うつ尺度（GDS）を用いての検討－

### ●研究の対象

2016年4月～2018年12月に物忘れ外来を受診した方

### ●研究の期間

2016年4月から2019年5月まで

### ●研究の目的

アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症では、認知機能障害の他、抑うつ状態がしばしば見られます。ご自身の物忘れに対する不安、今後の自分がどうなってしまうのかと言う不安、今までできていたことができなくなるストレスなどを抱え、気分が落ち込み抑うつ状態とすることが多いです。特に、レビー小体型認知症では、抑うつ状態が非常に特徴的な症状として位置づけられています。こうした抑うつ状態は、基本的な日常動作の低下や認知機能の悪化を招いたり、その結果介護者の方の負担が増大したり、患者ご本人のQOLが低下したりします。

これまでの研究では、レビー小体型認知症の方がアルツハイマー型認知症より、抑うつ状態になる割合が多いという報告（山根ら、2010、阪井ら、2013）もありますが、臨床上はアルツハイマー型認知症の方もたくさんの不安やストレスの中で抑うつ状態を呈す方も多く、両者に大きな差がないように感じられます

そこで、本研究ではアルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症における抑うつ状態の程度や質の差について検討し、抑うつ状態のケアについて検討し、それぞれの抑うつ状態に対するケアについて考察することを目的とします。――

---

研究－参考書式 1

●研究の方法

GDS に関して、認知症の疾患別に解析を行い、各認知症の抑うつ状態の解析をします。

---

●研究に使用する試料・情報

年齢、性別、居住形態、診断名、HDS-R、MMSE の認知機能検査の得点、及び GDS 得点

●研究組織

研究統括：岡本 一枝

研究データ解析：岡本 一枝、扇澤 史子、今村 陽子

研究データ収集：古田 光、筒井卓実、松井仁美、大矢雅樹、栗田主一

●資料の入手または閲覧、開示

この臨床研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じてあなた自身の資料の要求または閲覧ができます。あなたがご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝えいただければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲内で、あなた自身にあなたの結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報を含む場合には、資料の提供または閲覧はできません。

●お問い合わせ先

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター 精神科 岡本一枝

連絡先：03-3964-1141 （平日 9：00～17：00）